



い。「自助」の現実を見る
とき、怒りしか湧いてこ
ない。

さて、本連載も残り3回。
そろそろ本題を書いておこ
う。ふつう「国境」と聞
くと国の「端っこ」を想像す
るよね。いま日本国が支配
している空間で言えば、稚
内や根室、小笠原、対馬、
五島、与那国、竹富などの
地域がそれだ。多くは島な

った。「端っこ」は動くの
だ。

北海道のケース。近代史
において稚内(宗谷)や根
室は「先進地」だ(先住民
への収奪も含めて)。北前
船が廻り、物流も人流もあ
る。海でつながるから外か
らの往来も多い(境界も定
かではなかったが)。「拓殖
の観点から見た「端っこ」
とは内陸部ずばり言えば、

琉球はそもそも王朝だった
から歴史的には中心だ。「端
っこ」は薩摩との境界地域
であった奄美が背負ってき
た。

とはいえ、ここも一筋縄
ではない。「本土復帰」ひ
とつをとつともそう。周知
のことく、日本の敗戦直後
(経緯の複雑な満州、朝鮮
台湾などを除けば)千島と
樺太はソ連軍、本島および

私が奄美に魅かれた理由

のだが、国土の変化という
観点からみれば、大戦前、
これらは「国境」地域では
なかった。すべてが戦後の
産物なのだ。

「国境」は時代とともに
変わる。地理的な「端っこ」
だけで考えてはならない。
前近代史の知見を借りれ
ば、そもそも北海道も東北
の北、沖縄はおろか九州南
部でさえ「日本」ではなか

山に囲まれた北見あたりで
あった。「アイヌ」「囚人」
「タコ」「朝鮮人」と続く開
発の犠牲者たちの「屍」の
重さは、仙台藩の集団移住
をルーツとし、噴火湾もあ
り積雪も少なく「北の湘南」
と呼ばれる伊達の「明るさ」
と対をなす。

南洋群島を含む島嶼の多く
が米軍に占領された。南方
では米軍占領の範囲が「端
っこ」を揺り動かす。GH
Qの「行政分離」により、
1946年2月、北緯30度
以南は日本の行政から切り
離され、十島村の間に境界
が引かれた(日本に残った
島嶼部は三島村となる)。

51年、サンフランシスコ講
和の際、主権回復した本土
南から見通すことのできる
奄美は、日本国の虚像を

「端っこ」だ。でもこれ
て、あくまで余所者の見方
に過ぎない。地域に暮らす
人々の想いは違うだろう。
でもね、歴史や個性が違っ
ても、国のあり方を考えよ
うとする仲間たちはいる。
だからこそ、いまの地理的
「端っこ」クラブを越えて、
奄美の皆さんにも一緒に境
界(ポーター)を議論して
ほしいのだ。
(北海道大学教授)

研究会のための共同研究
JIBSNオンラインセミナー

11月20日(土)
開会式(13:30)
講演会(14:00)
懇話会(17:30)

講演者: 本野隆(「日本国境の形成と近代史」著者)
司会者: 岩下明裕(「国境を越えて」著者)

講演題目: 「境界地域と感染症」

16:30(17:00)
2021年11月23日(土)
「国境を越えて」著者
岩下明裕

2021年11月23日(土)13:30-17:30

講演者: 本野隆(「日本国境の形成と近代史」著者)
司会者: 岩下明裕(「国境を越えて」著者)

講演題目: 「境界地域と感染症」

16:30(17:00)
2021年11月23日(土)
「国境を越えて」著者
岩下明裕

講演者: 本野隆(「日本国境の形成と近代史」著者)
司会者: 岩下明裕(「国境を越えて」著者)

講演題目: 「境界地域と感染症」

16:30(17:00)
2021年11月23日(土)
「国境を越えて」著者
岩下明裕

に十島村の「七島(トカ
ラ)」が含まれ、北緯29度
が境界となる(奄美は米軍
占領下のまま)。

境界地域研究ネットワーク
JAPAN・オンラインセ
ミナー(11月23日)。詳細
はこちらから。 <http://borderlands.or.jp/jibsn/>